

守山企業景況調査報告書

(第54回)

令和5年1月～令和5年3月期 実績

令和5年4月～令和5年6月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和5年1月～令和5年3月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 68 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	19	11	57.9%
製造業	13	10	76.9%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	19	11	57.9%
卸売業	5	3	60.0%
合計	68	45	66.2%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和5年1月～令和5年3月、見通しを令和5年4月～令和5年6月とし、調査時点は令和5年4月30日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和5年1月～令和5年3月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和5年1月～3月期の調査結果では、売上高の数値が上昇し、業況、採算、資金繰りの3指標の数値が低下した。

<業況>

業況DIは▲2.3で前回調査の▲2.2から0.1ポイント低下した。業種別では、小売業▲27.3（前回調査比▲9.1）、製造業▲10.0（前回調査比▲10.0）、建設業20.0（前回調査比+20.0）、サービス業0.0（前回調査比±0.0）、卸売業33.3（前回調査比±0.0）と建設業が上昇し、小売業、製造業は低下した。4月～6月期見通しは全体で▲22.0である。

<売上高>

売上高DIは17.8で前回調査の12.8から5.0ポイント上昇した。業種別では、小売業9.1（前回調査比+9.1）、製造業0.0（前回調査比▲10.0）、建設業50.0（前回調査比+72.2）、サービス業9.1（前回調査比▲29.4）、卸売業33.3（前回調査比▲33.3）であり、小売業、建設業で上昇した。

4月～6月期見通しは全体で4.5である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲13.3で前回調査の▲12.8から0.5ポイント低下した。業種別では、小売業▲27.3（前回調査比▲2.3）、製造業▲20.0（前回調査比▲30.0）、建設業10.0（前回調査比+43.3）、サービス業▲27.3（前回調査比▲4.2）、卸売業33.3（前回調査比▲33.3）で建設業は上昇したものの、それ以外の業種は低下となった。

4月～6月期見通しは全体で▲23.8である。

<資金繰り>

資金繰りDIは▲7.3で前回調査の▲4.7から2.6ポイント低下した。業種別では小売業▲10.0（前回調査比▲0.9）、製造業0.0（前回調査比+11.1）、建設業▲11.1（前回調査比±0.0）、サービス業▲20.0（前回調査比▲20.0）、卸売業33.3（前回調査比±0.0）で製造業が上昇した。

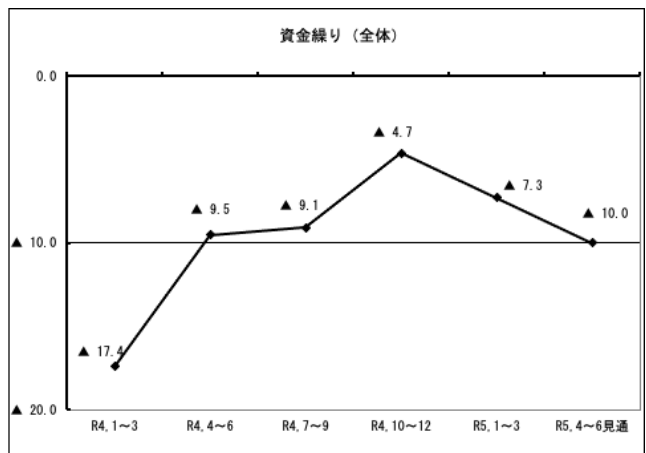
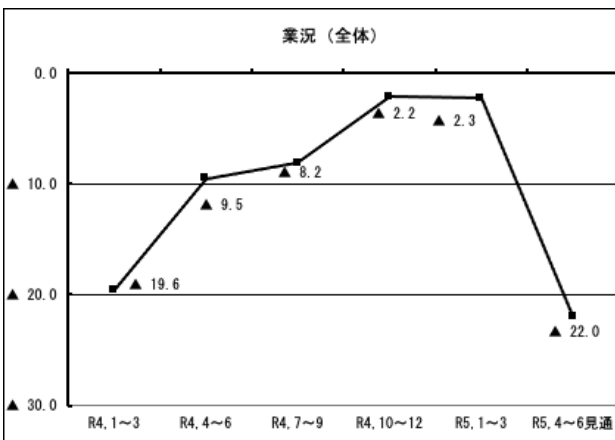
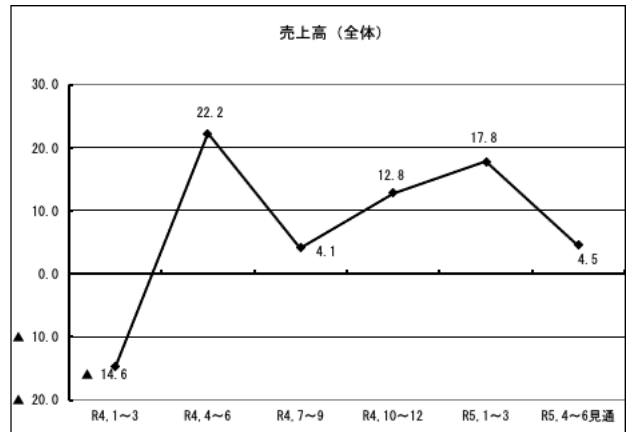
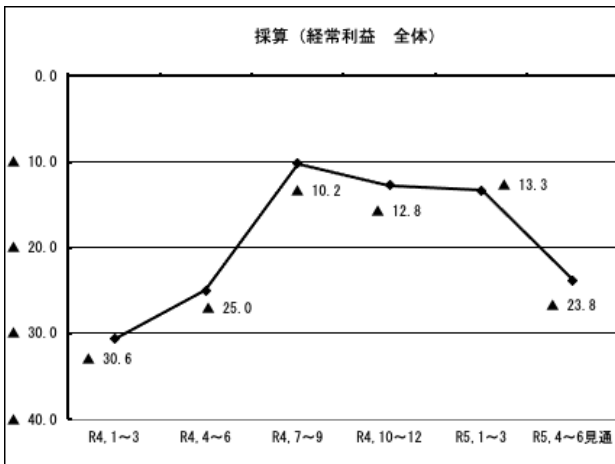
4月～6月期見通しは全体で▲10.0である。

<コロナウイルス、物価高騰の影響などの意見>

- ・電気水道ガスなど社会インフラの値上げによる原材料の高騰は、ロシアウクライナ問

題が治まるまで続くのではないかと

- ・コロナの収束が望めるようになってきて客足も戻りつつありますが、企業や学校等の大きな宴会は以前と同じようにはされないようです。反面、コロナで離れたパートの確保が困難な状況です。さらなる工夫をしていかねばと思っています。



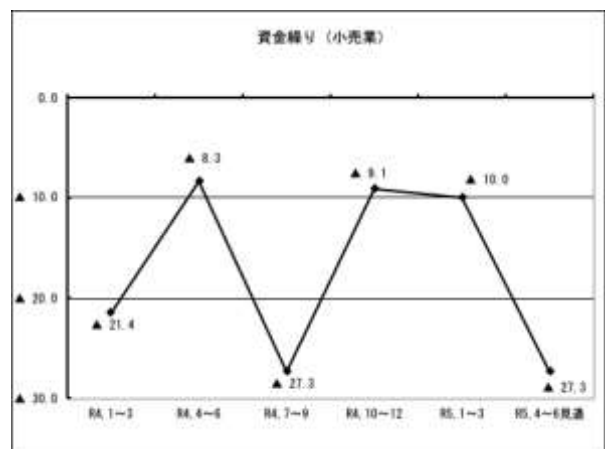
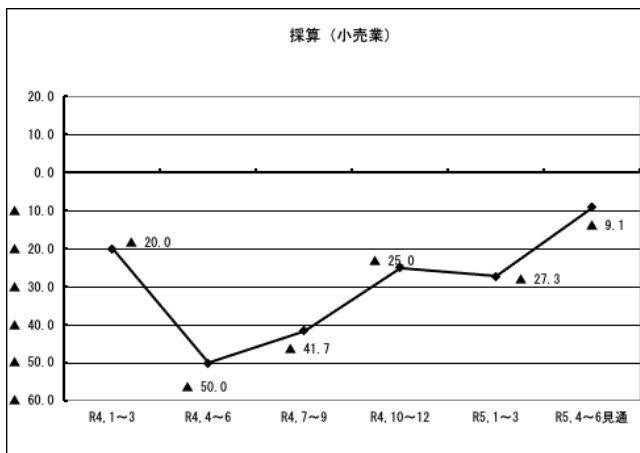
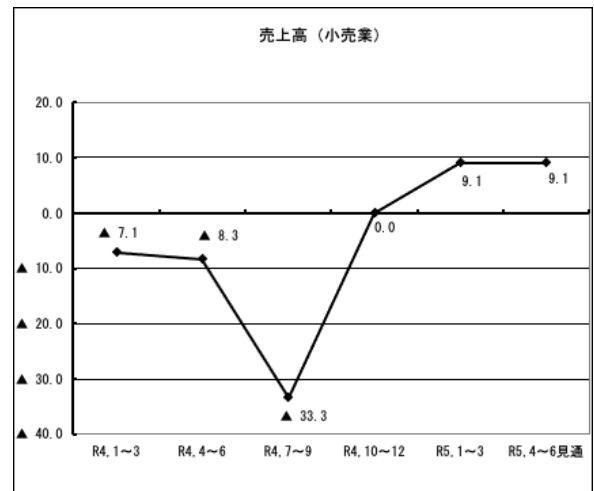
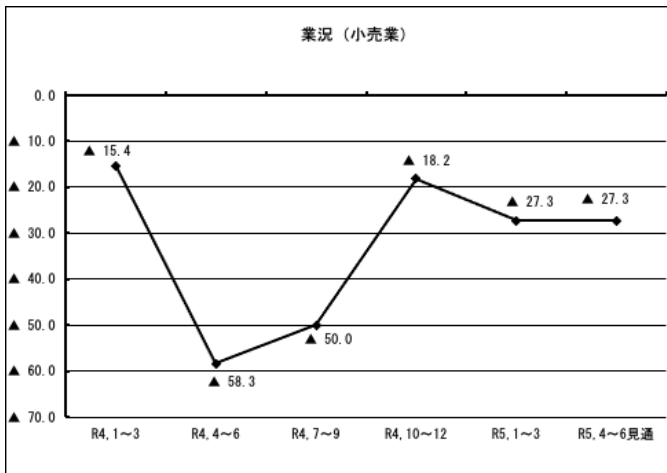
小売業

小売業の業況DIは▲27.3で前回調査に比べて9.1ポイント低下した。前回調査で大きく上昇したが今回調査では少し低下という結果になった。直近2年間で見ると令和4年4月～6月期、7月～9月期が極端に低くそれ以外は比較的安定した指標である。令和5年4月～6月期見通しも▲27.3なので、業況は低位安定的と考えられる。

売上高DIは9.1で前回調査に比べて9.1ポイントの上昇であった。前回に引続き、数値が上昇し、プラスの数値にまでなった。過去2年間ではプラスの数値になったことがなかったのだからかなりの回復と言える。4月～6月期見通しも9.1でこの調子が続きそうである。

採算DIは▲27.3で前回調査より2.3ポイント低下した。令和3年4月～6月期の15.4をピークに採算はマイナスの数値ばかりであり、採算的には2年間苦戦していると思われる。4月～6月期見通しは▲9.1なので少し改善が予想されている。

資金繰りDIは▲10.0で前回調査より0.9ポイント低下した。過去2年間を見ても▲30付近から▲10付近を上下しているのだから、同様の動きが続いていると考えられる。4月～6月期見通しは▲27.3と厳しくなる予想になっている。



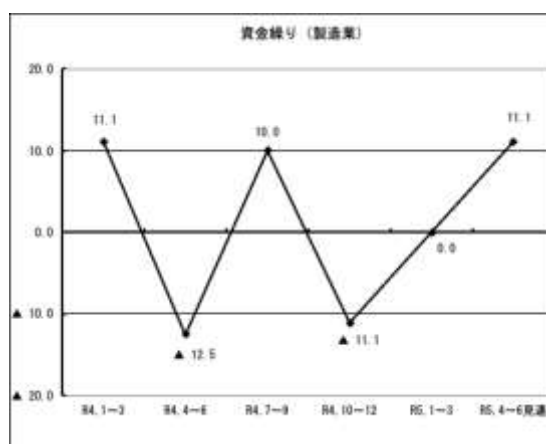
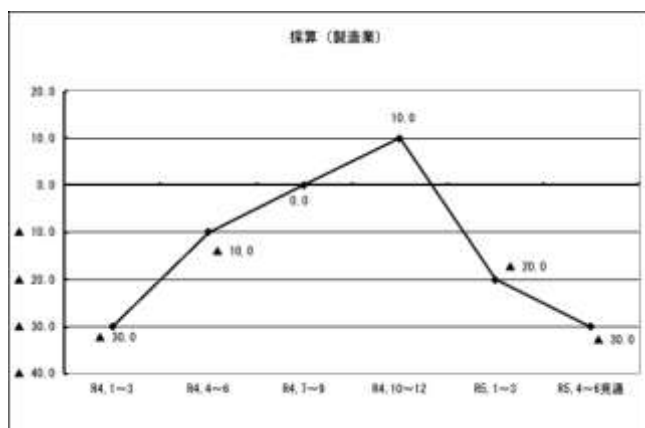
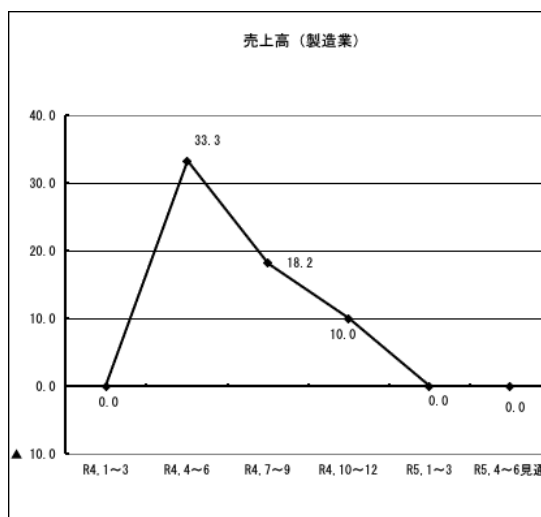
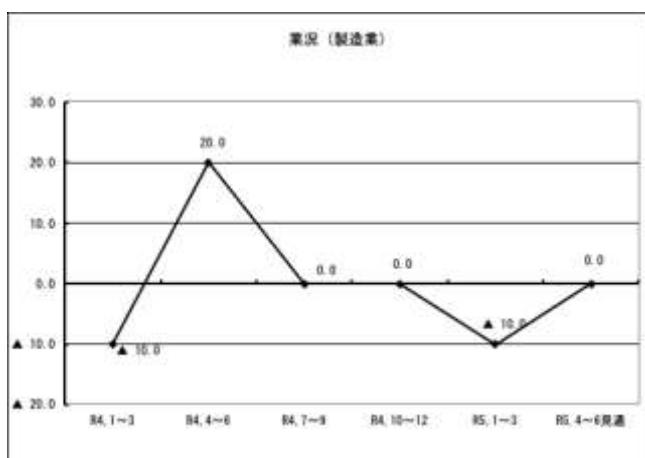
製造業

製造業の業況DIは▲10.0と前回調査の0.0から10ポイント低下した。ちょうど1年前の令和4年1月～3月期が▲10.0でその後0.0以上を保ってきたが、今回はマイナスの数値になってしまった。令和5年4月～6月期見通しでは0.0と下げ傾向に歯止めがかかると予想されている。

売上高DIは0.0で前回調査と較べて10.0ポイント低下した。業況と同じく1年前の令和4年1月～3月期が0.0でその後33.3まで上昇した数値が1年で0.0に戻った。4月～6月期見通しも0.0でこの先も上昇は見込めないと予想されている。

採算DIは▲20.0で前回調査に比べて30ポイント低下した。前回調査まで3四半期連続の上昇だったが、今回は大きく数値を下げるようになった。4月～6月期見通しは▲30.0と今回調査よりもさらに落ち込むことが予想されている。

資金繰りDIは0.0で前回調査に比べて11.1ポイント上昇した。令和4年中は上下運動のような結果で今回はその続きで上昇の順になっており、調査結果もそのようになった。4月～6月期見通しは11.1と引続きの上昇が予想されている。



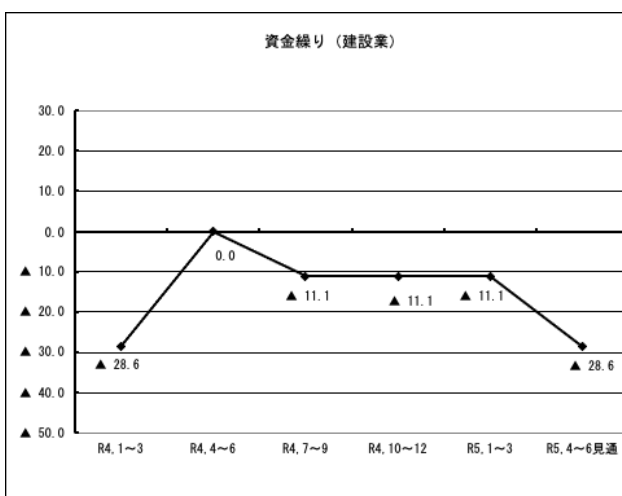
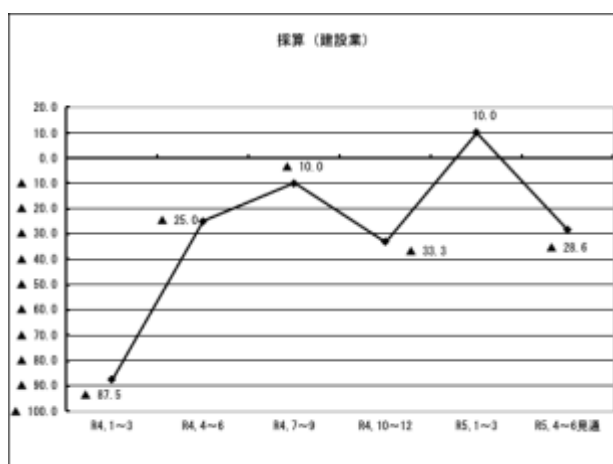
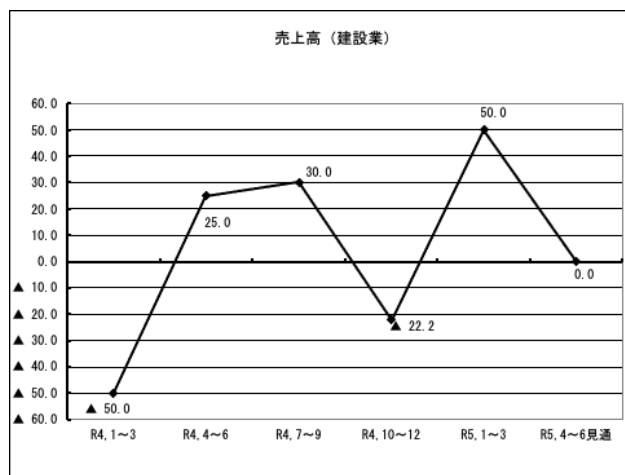
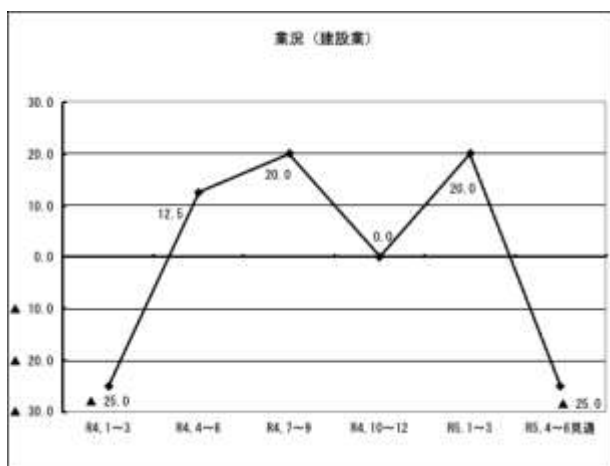
建設業

建設業の業況DIは20.0であり前回調査から20.0ポイント上昇した。前回調査では0.0まで数値が下がったが今回調査では再び20.0に戻しており、業況は明るい状態が続いていたと考えられる。しかし、令和5年4月～6月期見通しは▲25.0と大きく下げられており、この先は予断を許さない状況になりそうである。

売上高DIは50.0で前回調査より72.2ポイント上昇した。前回調査の際には令和5年1月～3月期見通しは11.1であったが実際はそれを大きく超える50.0であった。一方で、令和5年4月～6月期見通しは0.0で少し厳し目の予想になっているので、売上高の面でも楽観はできないようである。

採算DIは10.0で前回調査より43.3ポイント上昇した。業況、売上高と同じような動きを採算もしており今回は大きな上昇になった。また、4月～6月期見通しも▲28.6と業況、売上高と同様に大きく低下しており、採算面も厳しそうである。

資金繰りDIは▲11.1で前回調査と同じであった。3四半期連続で▲11.1となっており、マイナスの数値であるが安定した動きである。しかし、4月～6月期見通しは▲28.6と資金繰りとしては大きく下げられており、4月～6月期は建設業全体的に厳しいと予想されている。



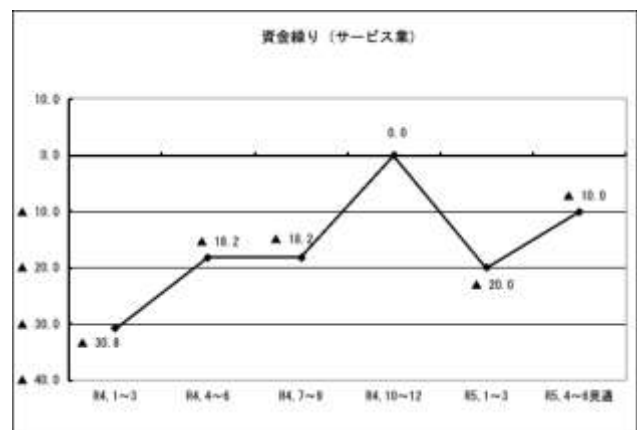
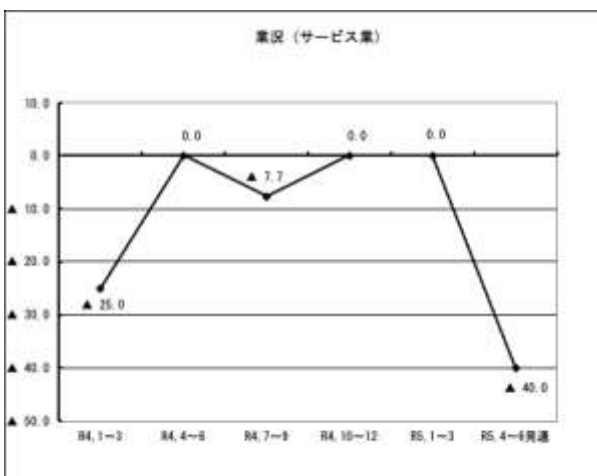
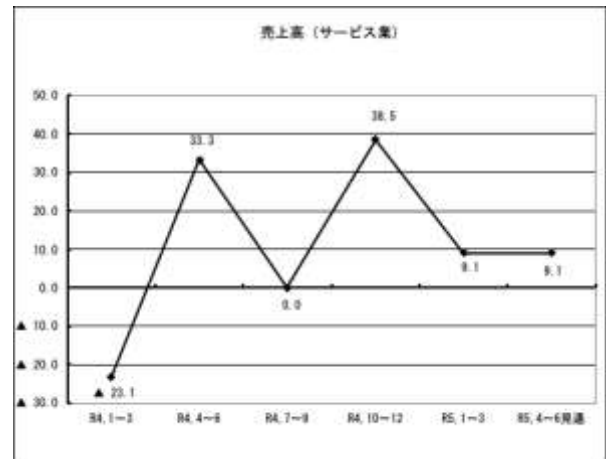
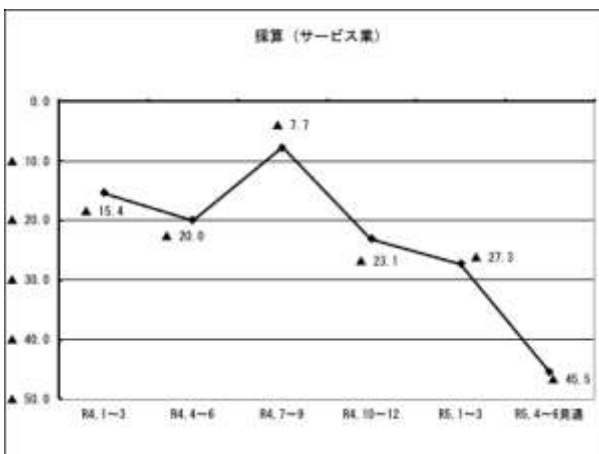
サービス業

サービス業の業況DIは0.0で前回調査と同じ結果になった。令和2年、令和3年と非常に低い数字が並んでいたサービス業の業況は令和4年でかなり回復し、今回調査の結果もそれを踏襲している。しかし、令和5年4月～6月期見通しは▲40.0と令和3年4月～6月期の58.3に続く低さであり相当厳しい予想になっている。

売上高DIは9.1で前回調査より29.4ポイント低下した。低下はしたもののプラスの数値であり、売上高自体は悪いとは考えられない。売上高は令和3年1月～3月期からの2年間で回復を果せていると思われる。4月～6月期も9.1とプラスの予想である。

採算DIは▲27.3で前回調査に比べて4.2ポイント低下した。令和4年7月～9月期の▲7.7から2四半期連続の低下である。採算は過去2年間を見てもプラスの数値になることがなく、令和2年10月～12月期の▲66.7を底に▲15から▲20の数値が続いて来ていたのでこの2四半期の数値は少し低めの傾向である。4月～6月期見通しは▲45.5と非常に低い数値予想なので、注意する必要がある。

資金繰りDIは▲20.0で前回調査より20ポイント低下した。資金繰りの数値は▲20を中心に上下する傾向が続いてきたが、今回もその範囲内での動きであった。4月～6月期見通しも▲10.0で概ね安定した動きであると考えられる。



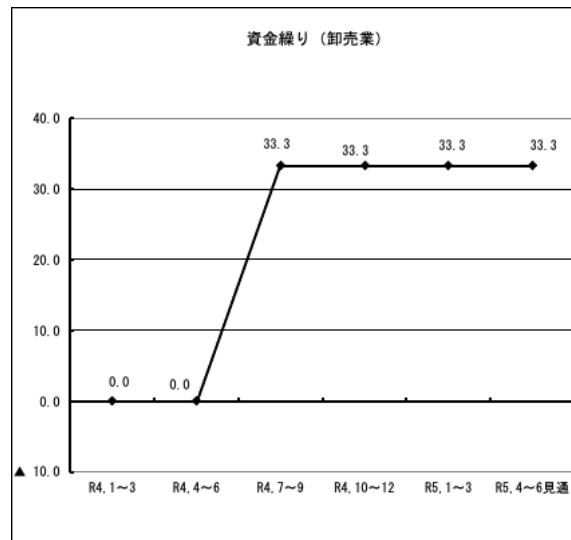
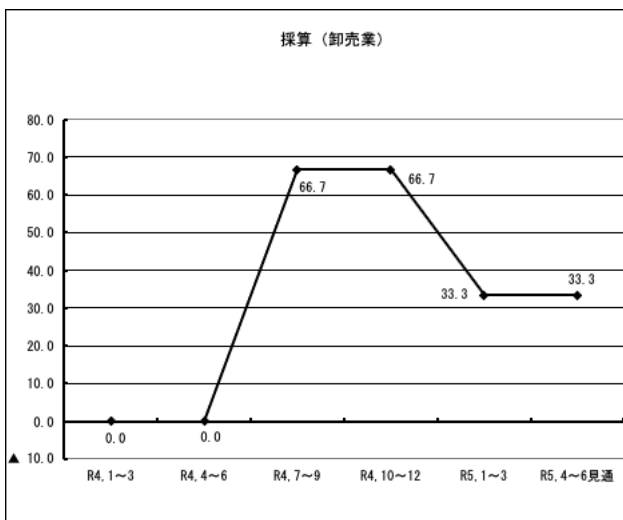
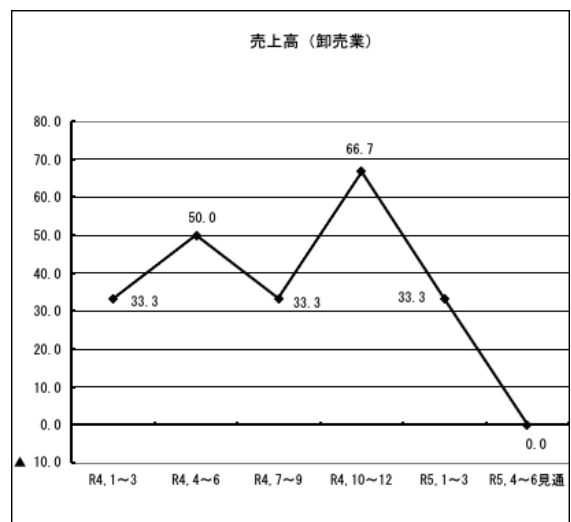
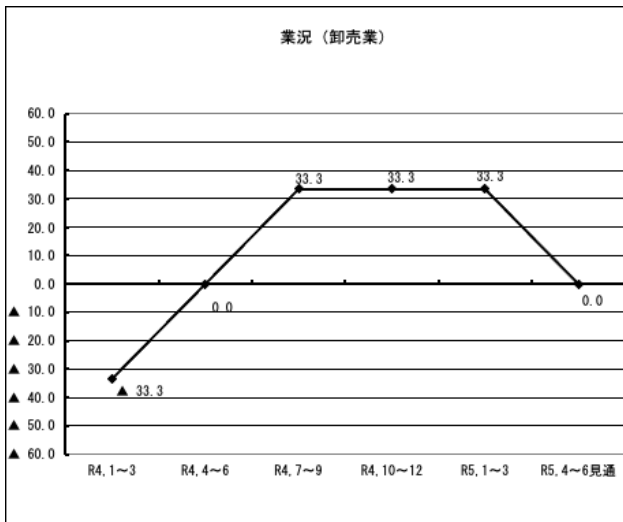
卸売業

卸売業の業況DIは33.3で前回調査と同じであった。これで3四半期連続の33.3となった。令和2年は▲60前後の低位安定、令和3年は▲50から+50を上下、令和4年は33.3で安定と年によって特徴的な動きが見られる。令和5年4月～6月期見通しは0.0である。

売上高DIは33.3で前回調査より33.4ポイント低下した。売上高のグラフは過去1年間でも33.3を最低、66.7を最高とする動きを見せており引き続き卸売業の売上高は好調のようである。ただし、令和5年4月～6月期見通しは0.0と低い値になっているので注意する必要がある。

採算DIは33.3で前回調査より33.4ポイント低下した。2四半期連続で66.7の前回、前々回調査であったが今回は33.3まで下っている。とは言え、数値自体は高いものである。採算が悪化したということではなさそうである。4月～6月期見通しも33.3でこの先も採算の悪化は予想されていない。

DI資金繰りDIは33.3で前回調査と同じであった。これで3四半期連続の33.3という結果になった。資金繰りも安定しているようである。4月～6月期見通しも33.3で資金繰り面での心配もなさそうな卸売業である。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全 体	▲ 2.3	▲ 22.0	17.8	4.5	▲ 13.3	▲ 23.8
小売業	▲ 27.3	▲ 27.3	9.1	9.1	▲ 27.3	▲ 9.1
製造業	▲ 10.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	▲ 30.0
建設業	20.0	▲ 25.0	50.0	0.0	10.0	▲ 28.6
サービス業	0.0	▲ 40.0	9.1	9.1	▲ 27.3	▲ 45.5
卸売業	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全 体	15.6	9.1	▲ 16.7	▲ 29.3	▲ 9.8	▲ 7.9
小売業	▲ 18.2	▲ 18.2	0.0	0.0	▲ 12.5	0.0
製造業	30.0	30.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 10.0
建設業	30.0	0.0	0.0	▲ 20.0	22.2	0.0
サービス業	0.0	0.0	▲ 45.5	▲ 40.0	▲ 27.3	▲ 27.3
卸売業	100.0	100.0	0.0	0.0	33.3	33.3

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全 体	▲ 7.3	▲ 10.0	5.6	5.7	8.6	8.8
小売業	▲ 10.0	▲ 27.3	▲ 14.3	▲ 14.3	0.0	0.0
製造業	0.0	11.1	22.2	25.0	22.2	25.0
建設業	▲ 11.1	▲ 28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲ 20.0	▲ 10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	33.3	33.3	50.0	50.0	50.0	0.0

過去からの動向

